



8月29日 近隣市町村間で災害時支援



西原町・北中城村・中城村・宜野湾市・北谷町の5市町村間で、「災害時相互応援協定」を締結しました。この協定は、被災した自治体からの協力要請に対し、被災していない自治体が人（職員、ボランティアなど）、モノ（食料、生活必需品、車両など）、場所（避難所など）を派遣・提供して支援し、被災した自治体が応急対策及び復旧活動を円滑に行えるようにすることを目的としています。

まつがわまさのり
松川正則市長（宜野湾市）は「東・西海岸を含めた相互応援協定となっており、近隣の自治体との連携は住民の安心につながる。また、災害発生時には住民の心の支えになる」と期待を寄せました。

8月27~30日 美らまちパヴァリオン開催
~令和だよ!全員集合~



町内7ヶ所の障がい福祉サービス（就労系）事業所の活動状況等の展示会が、町中央公民館で開催されました。また、最終日には2時間限定でパンやお米、EM洗剤など事業所オススメ商品の販売もあり、町内外から訪れた多くの方々にぎわいました。

8月23日 バトントワリング全国大会入賞



よび あやか
與儀朱花さん（西原東小5年）が町役場を訪れ、マーチングバンド・バトントワリングの第23回ジャパンカップの個人バトントワリング5年生以下の部において、8位に入賞したことを報告しました。與儀さんは「入賞できてとても嬉しかった。11月に開催される沖縄県支部予選で優勝して、また全国大会で入賞したい」と今後の目標を語りました。

8月25日 NS²BP 極賞 受賞



西原町を元気にしようと、高校生で結成するNS²BP（西原学生ソーシャルビジネスプロジェクト）が、三重県で開催された全国高校生SBP交流フェアにおいて最優秀賞である極賞、審査員特別賞を受賞しました。これまで6年間に延べ19高校から127人がまちづくりに参加していること、ソーシャルビジネスとして100社を超える企業協賛を集め、演劇「さわりん」と運玉義留」を2年連続で成功させていることが評価されました。来年2月にも上演されますので、多くの方のご来場をお待ちしています。

8月11・12日 よーいドン! かけっこ教室



運動会の前に「より速く、カッコよく走ろう」をテーマにしたかけっこ教室が町民陸上競技場で2日間に渡り開催され、延べ145人の児童が参加しました。砂川力也氏（琉球大学教育学部准教授）と琉球大学陸上競技部員を講師に迎え、正しい姿勢で走るためのトレーニングや50m走タイム測定が行われました。子どもたちは楽しみながらも真剣に取り組み、自身の記録を更新していました。

また、保護者向けに開催された運動学習講座では、子どもの学力と運動能力の関係性について、神経系の発達
が最も著しい小学生の間にたくさん運動することで脳を活性化させることができるため、勉強だけでなく運動も同様に重要であるとの講話がありました。



8月5日 いっぺーまーさん! 料理講習会



調理実習を通じた世代間交流を目的に親子で学ぶ料理講習会（西原町生活研究会主催）が町中央公民館で開催され、多くの親子が参加しました。生活研究会会員の指導で、てまり花寿司、すびいの肉汁、鶏のから揚げ、サラダスパゲティ、シークアーサーゼリーなど、沖縄ならではの食材を活用した料理を親子で協力して作りしました。

参加者は豪華な食事を前に、親子そろって満面の笑みを浮かべていました。



8月22・23日 世界で活躍するニシハランチュ

アメリカのミシガン州で空手道場を開設し、半世紀に渡り沖縄空手の普及に貢献している字棚原出身の伊波清吉さん（沖縄小林流空手道範士十段・沖縄小林流米国道館空手道協会会長）がふるさとでトーチカ祝いを行うため来沖しました。伊波さんは34歳でアメリカに渡り道場を開設し、今に至るまで数多くの弟子を育成しています。1996年にはミシガン州ランシング市から、空手道を通じて日米間の国際文化交流に寄与したとして「名誉市民」に認定されており、「フレンドシップ（友情）が一番大切にしてきた。これまでいろんな人に支えてもらいありがたいと思っている」と感謝を述べました。

また、同じく字棚原出身の空手家の故宮里昌栄範士がアルゼンチンのコルドバ市で開いた宮里空手道場一行も伊波さんのトーチカ祝いに出席するため来沖しました。息子で現館長の宮里昌利さんは「宮里道場は60周年を迎えます。先生（父）の生まれた西原の一員として誇りをもち、今後も友好の架け橋になりたい」と語りました。



▲伊波清吉さん（前列右から4番目）



▲宮里昌利さん（前列左から4番目）